

子供道路隊について（総合学習における支援）

四国地方整備局 土佐国道事務所 調査第二課 兵頭 一志

1、はじめに

近年の道路行政では、住民との連携強化を図り、双方向での事業展開を図ることが重要視されている。一方、教育現場では総合学習が本格的に開始され、全国で様々な取り組みが試行錯誤のうちに行われている。そこで今回、教育機関と連携調整を図り、みちづくりをテーマとした総合学習における支援（子供道路隊）を通して、住民参加型組織の検討、子供たちによる道路問題の調査、地域に密着した道路管理、行政の幅広い情報発信等を共同で行ったものである。

2、学習支援実施の流れ

従来から、学校教育では行政による出前講座などの支援がなされてきたが、いずれも授業單元ごとの単発的な場合が多かった。今回の学習支援は、学習テーマの設定から、授業シナリオの作成、授業実施、事後評価といった一連の支援を行った。

表 1 学習支援実施の流れ

手 順	内 容
1．小中学校との連携の糸口づくり	高知市教育委員会へのヒアリング
2．実施運営体制の検討	教育体制把握、地元組織との協働の検討
3．対象学校の募集	学習プログラム案の提示、募集
4．学習プログラムの作成	希望校へのヒアリング、授業内容の検討
5．総合学習支援の実施	教材等作成、学習支援

表 2 学習支援の実施体制

機 関 名	役 割 分 担
学校（教育機関）	プログラムの実施・統括 / 安全管理
行政（道路事業者）	トータルプランニング / 学校との連絡調整 / 教材提供及び情報提供 / 専門的分野の指導講師
コンサルタント 地元組織	学習プログラムの作成 / 教材提供及び情報提供 / 専門的分野の指導講師

3、実施した授業内容

小中学校の総合学習では、各学校・学年毎に学習テーマを設定して授業が進められている。これら各学校のテーマと整合するかたちで、まちづくり・みちづくりに関する学習プログラムを提案した。なお、文科省が総合学習のねらいとして掲げる「学ぶ関心、意欲」「問題解決力」「実践力」「表現力」が身につくように配慮している。

授業工程は、「学習に対する視点の説明」「体験型学習（まち探検、地元インタビュー、現場見学会等）」「学習成果のとりまとめ」「発表会」として行った。

表3 各学校の授業概要

学校名	各学校のテーマ	学習プログラム	キーワード
旭東小学校	地域を知ろう	安全で人にやさしいまち	バリアフリー / 環境
泉野小学校	見つめよう、 みんなの命	みちからくらしを考える	道路の種類 / 地域とくらし
横浜新町小学校	生き方を考える	いろいろな職業の人に 会おう	道の機能、役割 / 道路管理
江陽小学校	きらきら チャレンジ	サイクリングに行こう	バリアフリー / 交通安全

4、子供道路隊の学習成果

事後評価として先生方を対象にアンケート調査を実施し、学習成果について把握した。

【提案した学習プログラムについて】

高知市内のみちやまちの様子など子供たちにとって身近な題材でわかりやすかったと評価を得ている。

現場見学会では、子供たちが積極的に工事現場の方に質問をしていた。(横浜新町)

子供たちが選んだテーマを実現していくプログラムになっていて、子供たちが自主的に取り組んでいた。(江陽)

【教材について】

ビジュアルに表現した教材が子供の意欲を惹きつけてくれた点で評価されている。

子供に人気のあるアニメキャラクターをモチーフにした教材は、好評であった。(泉野)

ビデオや写真などは学習をふりかえるツールとしてよかった。(江陽)

【学習成果について】

子供たちが自分たちの住むまちやみちに目を向け、行動するようになりつつあることが窺える。

なにげなく通っているまちやみちには、たくさんの人の苦労や努力があること、誰もが安心して通れる道、動物や生物にやさしい道づくりがされていることを理解できたと思う。

(横浜新町)

学んだことや現地へ行ったことなどが子供たちの普段の会話にでている。(旭東)



写真1 ビデオを活用した授業



写真2 トンネル現場見学



写真3 学習成果発表会

5、家庭、地域との連携

今回の総合学習支援では、家庭や地域との連携強化を図ることも目的としている。学習支援を通して、家庭や地域との連携強化を図るために実施した取り組みを示す。

【みちづくり懇談会の開催】

学習成果発表会后、父兄やPTAの方々など十数名を招いて、事務所長とみちづくりに関して日頃感じていることなどについて議論する「みちづくり懇談会」を開催した。当事務所からは、道路行政を進める基本的な考え方の説明など、みちづくりのIR活動を行った。その中で、参加者からは勉強会への講師の派遣方法や行政の担当の窓口などについて具体的な質問が出された。



写真4 みちづくり懇談会

【学習を通じての取り組み】

家庭や地域との連携強化を図るため、学習プログラムの中に組み込んだ取り組みについて表4に示す。こうした取り組みは、事後に行ったアンケート調査やヒアリングからも学校側や父兄から継続してほしいとの要望が多かった。

表4 各学校の取り組み内容

学校名	取り組み内容
全学校	発表時に子供たちの父兄を招待し、学習成果の発表を聞いてもらう。
旭東	まちに出て街頭インタビューを行う。
横浜新町	子供の発表練習の際、親に最低3回は聞いてもらうことを義務づける。
横浜新町	子供が自ら興味ある職業に携わる人に会って、話を聞く。

6、「総合学習支援の手引き・事例集」の作成

今後、総合学習における支援を継続的かつ広域的に展開するために、今回蓄積された学校へのアプローチ方法や子供の興味の惹きつけ方、授業実施のポイントなどのノウハウをまとめた「総合学習支援の手引き」「総合学習支援の事例紹介」を作成した。

今後、学校を含めた教育機関や行政機関が利活用し、総合学習支援が普及されることを期待したい。



写真5 学習支援の手引き・事例紹介

なお、この手引きに記載している内容として、学習支援の中で把握された総合学習の実態とそれに対する今後の課題について、その一部を紹介する。

【授業支援体制】

学習の実態

各学校とも、総合学習担当の教員1名と、クラス担任が授業を運営しており、特に、まち探検や現場見学などでは、引率、指導の人手が不足した。支援当初授業にかかわった人数は5～6人で、多いときは8人程度であった。しかし、徐々に子供との対応や授業のすすめ方に適応していくに従って、3～4人程度で授業実施することが多くなった。

今後の課題

通常授業の支援体制においては、職員、専門家の人数を各授業ごとに2～3人、校外授業など体験型学習においては、さらに多くの支援者を確保することは欠かせない。この点については、授業の分野によって適任と判断できる地元組織（ボランティア団体、NPO、大学機関等）とのネットワークを活かすことが、地域との連携の面からも有効といえる。

【家庭・地域との交流】

学習の実態

発表会后に、家族との懇談の場を設けたが単発に終わった。その他にも、地元の職業人に子供たちが直接会って質問したり、発表会に父兄を呼ぶなどの取り組みを行ったが、十分に体系化された取り組みとはいかなかった。この点については先生方への事後評価アンケートの意見でも、「もっと積極的に交流を持つべき」との意見が多かった。

今後の課題

今後の授業に20～30時限程度が確保できれば、総合学習の授業の中に家族へのインタビューを組み込むことや地元組織との連携などによって、家庭地域との交流の道筋を創り出すことは可能である。また、行政との連携が希薄な現状に対しては、インターネットを活用して、子供たちからのみちづくりに関する疑問・質問に答えしていくことなどのサポートも授業プログラムに組み込んでいくことが望ましい。

7. おわりに

子供たちに、身近なまちやみちについての理解を深めてもらうことは、かれらが大人になったとき、自発的なみちづくり活動への参加が期待できる。また、学習を通して学んだ知識が子供を通して親や地域住民へと伝わっていることから、IR活動の一環としての利用も有効である。

現在、道路事業も含め公共事業に対し厳しい眼が向けられているが、社会を支えるみちづくりの必要性は高い。これを担うわれわれ技術者にとっては、将来の豊かな地域社会の実現に向けての活動として、その担い手となる子供たちにみちづくりの必要性・重要性を伝えていくことは大きな責務の一つであると考えます。